第23回

日本水大賞

2021 日本ストックホルム青少年水大賞

受賞者へお祝いの言葉

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第23回日本水大賞「大賞」を受賞されたNPO法人シャンティ山口の皆様、誠におめでとうございます。皆様は、これまで、ラオスからタイ山岳部に逃れられた難民の方々の水環境の改善に向けて、森林伐採による大規模なトウモロコシのモノカルチャーから、マンゴー等の果樹栽培への転換を進め、森林を再生し、土壌の浸食や水資源の枯渇、洪水発生などの防止を図るとともに、環境に配慮したエコトイレスシステムの開発・普及により、安全な飲料水の確保や衛生環境の改善にも取り組まれています。

この活動は、現地の方々の水環境の改善のみならず、果樹の収穫による安定した生活の確保やコミュニティの活性化にもつながっており、SDGs時代のモデルとなる活動として高く評価され、この度、国際活動では、初めての大賞を受賞されたと伺っています。

本県においても、森林が有する水源涵養など多面的な機能の維持を図るとともに、全ての主体の連携・協働のもと、森林の保全と適正な管理、河川や海の保全活動等の促進により、水質の浄化や維持に努めているところです。

こうした中、皆様が栄えある大賞に輝かれたことは大変喜ばしく、長年の活動に対し、改めて敬意を表します。

今回の受賞を契機として、皆様の活動の一層の発展と飛躍をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年6月15日
山口県知事 村岡 嗣政

祝 辞

第23回日本水大賞「国土交通大臣賞」を受賞されました「特定非営利活動法人ドラゴンリバー交流会」の皆様は、心からお祝い申し上げます。

皆様は、「水を創り、水を活かし、水と生きる」との理念のもと、どんぐりの森を育てるための植樹活動や河川清掃活動、河川に親しむイベントの開催など、流域の水環境を保全し、上下流のつながりを生み出す活動に長年にわたり取り組んでこられました。また、近年取り組まれている「マイ・タイムライン」の普及活動は、住民1人1人の防災意識の啓発に加えて、地域の助け合いによる防災活動を促すものであり、これは防災行動の基本指針となる「自助、共助、公助」の考え方を広め、実践につなげることに大きく貢献するものです。

現在、全国において、大規模水害への備えとして、あらゆる関係者が協働した流域全体での治水対策に取り組んでおり、福井県としてもハード整備とともに洪水ハザードマップの作成支援や住民への水防災意識を啓発する出前講座などに取り組んでおります。この度の皆様の受賞は、地域が主体となって防災に取り組むことの実効性や影響力が評価されたものであり、全国の模範となるものと考えております。

受賞された皆様方におかれましては、今回の受賞を契機にますますご活躍されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
福井県知事 杉本 達治

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

十勝川中流部市民協働会議の皆様におかれましては、第23回日本水大賞「環境大臣賞」の受賞、誠におめでとうございます。また、十勝川の優れた河川環境を次世代に継承すべく、柔軟な発想と優れた行動力をもって、長年にわたり活動してこられたことに対し、心から敬意を表します。

このたびの受賞は、水域復元やヤナギの除去などによる「氾濫原湿地の保全」や、アイヌ民族の知恵に学びながら抽植物のガマを復元可能な量しか採らないという「生物資源の持続可能な利用」、さらには地元高校生との協働の取組などが高く評価されたものであり、北海道が目指す自然と共生する社会の実現にも寄与する取組です。

また、湿地の管理や利用を通じた独自の手法は、温室効果ガス排出量や河川維持管理コストの削減、タンチョウの新たな生息地の創出といった相乗効果を生み出しており、地域の皆様との協働によるこうした取組は、環境・経済・社会の統合型問題の解決に向けた優れたモデルであると考えています。

今回の受賞を契機として、十勝川中流部市民協働会議の皆様の水に関わる活動がますます発展されることを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
北海道知事 鈴木 直道

祝 辞

羽東川・波豆川流域水質保全協議会の皆様、「第23回日本水大賞 厚生労働大臣賞」の受賞、誠におめでとうございます。

水道事業者が流域住民や流域自治体と連携し、水質保全に取り組んでこられたことが高く評価されての受賞です。水道水源を訪ねるバスツアーをはじめ、水生生物の観察イベントや河川清掃、広報誌の発行など、多彩な活動を展開されている皆様に心から拍手を贈ります。

兵庫県では、管理する河川等の清掃・美化活動を、地域の方々に行っていただく「ひょうごアドプト」や、県民とともに河川環境の自然再生等を行う「ひょうご・人と自然の川づくり」などに取り組んでいます。また、「ひょうご水ビジョン」を策定し、水、さと、まちが共生する県民生活の実現をめざしています。

それだけに、ふるさと兵庫を想う皆様が、地域に根ざした活動を展開され、生命の源「水」をまもり、活かされているのは本当に嬉しいことです。

いまコロナ禍によって、私たちの社会は大きな転換期を迎えています。ポストコロナの新時代を切り拓く、その原動力は地域でいきいきと暮らす人々の元気です。今回の受賞を励みに、皆様が一層充実した活動を展開され、その裾野がますます広がっていくことを期待しています。

令和3年6月15日
兵庫県知事 井戸 敏三

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第23回日本水大賞を受賞された皆さま、誠におめでとうございます。

農林水産大臣賞受賞の「福岡県立伝習館高等学校自然科学部」の皆さまは、柳川掘割と飯江川で取り組んできた絶滅危惧種ニホンウナギのサンクチュアリづくりを通してクスノキの葉の脱窒効果を解明し、地域づくりにも大きく貢献されています。

未来開拓賞受賞の「北九州市立大学国際環境工学部エネルギー循環化学科・環境生命工学科」の皆さまは、大学内食堂の排水溝の悪臭対策として、光触媒と紫外線を組み合わせた排水溝内グリーストラップの悪臭防止手法を開発しました。その成果を地元だけでなく海外でも活用いただくとする取り組みに期待が高まっています。

タイムリー賞受賞の「九州災害情報（報道）研究会」の皆さまは、全国に先駆けて報道機関と行政機関が連携し、住民自らの避難行動につながる災害報道の充実のための研究に取り組んでこられました。研究会には全国各地からの参加も見られ、取り組みの視野が広がりつつあります。

福岡県では、県内各地で川や水に関する活動をされている方々の連携を深める取り組みとして「ふくおか水もり自慢！」を開催しています。このような中、皆さまが各賞を受賞されましたことは大変喜ばしい限りです。

今回受賞された皆さま方の活動が今後ますます発展されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
福岡県知事 服部 誠太郎

祝 辞

第23回日本水大賞「文部科学大臣賞」を受賞された「豊田市立西広瀬小学校」の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

この度の受賞は、「飯野川を昔のようにきれいで遊ぶことのできる川にしたい」という児童の願いから、昭和50年に始まった飯野川の清掃活動が、地域や地元の企業等と連携した水質汚濁調査や放棄水田を利用したビオトープ自然観察等の活動へ発展し、さらには、同校の「環境教育全体計画」により、独自のカリキュラムに取り組むなど、持続可能な環境教育活動を行ってきたことが高く評価され、今回の受賞につながったと存じます。

愛知県では、「自分たちの近くの川を自分たちの団体できれいにしたい」という住民の皆様の要望に応えるため、草刈り作業を地域住民団体等へお願いする「愛知コミュニティリバー推進事業」等により、地域と連携した川づくりに努めているところです。

今回、受賞された皆様の取り組みは、地域や地元の企業等も参加して長期間にわたり行われており、皆様の尽力に敬意を表します。

今回の受賞を契機に、今後ますます活動が発展し、さらに飛躍されますことを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
愛知県知事 大村 秀章

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第23回日本水大賞「経済産業大臣賞」を受賞されましたテラル株式会社の皆様、誠におめでとうございます。

皆様が、アフリカ・セネガル農村部の無電化地域において、太陽光を動力としたクリーンな給水設備を、集落ごとの状況に適応した様々なパターンを想定して製作・設置するとともに、安全な水利用に関する啓発や、地域住民による管理・運営に向けた維持管理体制の構築に取り組まれましたことは、途上国の持続可能な発展に貢献する取組として高く評価されるものでございます。

このように、水と空気を操るスペシャリストとして社会に貢献する皆様の取組は、県民の誇りにつながるものであり、心から敬意を表します。

本県では、環境問題が深刻化する海外において、環境・エネルギー分野における生産力や技術力を生かした事業展開などを促進しているところでございます。

こうした中、皆様の活動は、本県が誇るものづくり産業のイノベーション力の向上につながるとともに、安心して暮らせる平和な世界の実現に貢献するものであり、こうした活動が、更に推進されることを期待しています。

最後に、今回の受賞を契機とした、テラル株式会社様の今後ますますの発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
広島県知事 湯崎 英彦

祝 辞

第23回日本水大賞「市民活動賞」を受賞されました「特定非営利活動法人自然回復を試みる会・ビオトープ孟子」の皆様に、心からお祝い申し上げます。

皆様は、里地里山の水環境や原風景、生物多様性を保全し、次世代へつなぐため、休耕田の稲作再開やビオトープへの活用など稲作水系復元による動植物の生息環境の保全活動に取り組んでこられました。

また、関係機関や団体と連携して、地域の小・中学生などを対象にした水生生物の観察による環境教育や調査研究活動等を継続されるなど、団体設立以来20年以上にわたる地域と密着した着実な活動が高く評価され、今回の受賞につながったものと存じます。

和歌山県では、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進、里地里山の振興及びそれぞれの取組に係る次世代を担う人材育成に取り組んでおり、今回の受賞は大変喜ばしいことであるとともに、皆様の活動成果が波及し、県内各地の同様の活動が活発となることを期待しています。

結びに、今回の受賞を契機に、皆様の活動がますます発展されることを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年6月15日
和歌山県知事 仁坂 吉伸

受賞者へお祝いの言葉

謝 辞

「第23回日本水大賞」の各賞を受賞された皆様に心からお祝い申し上げます。

また、この度、滋賀県庁として「国際貢献賞」を賜りましたことにこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ご支援、ご協力賜りました皆様へ心より感謝申し上げます。

滋賀県では県として、国際的な協調と協力を掲げ、琵琶湖や環境等に関する研究成果等を生かして海外の課題解決に貢献することとしています。

今回の活動は、滋賀県と関係の企業や大学の皆様との産学官民連携により環境保全と経済成長を実現する「琵琶湖モデル」のベトナム社会主義共和国への展開を目指した取組です。クアンニン省やハイフォン市において、琵琶湖を中心とした環境保全に取り組んできた経験を活かし、産学官民が一体となり、ハロン湾周辺的环境改善を支援したものであり、今回の受賞は大変意義深いものと認識しております。

本年7月には、「びわ湖の日」制定から40周年を迎えます。石けん運動などに象徴される、自分たちの環境は自分たちで守ろうとする精神を次世代に引き継ぐため、琵琶湖版SDGsである「MLGs」づくりを進め、今後も国際貢献に取り組むとともに、県民、企業の皆様の活動を支援してまいりたいと思います。各賞を受賞された皆様には今回の受賞を機に、取組が一層推進されることを祈念いたしまして、受賞のお礼と皆様へのお祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
滋賀県知事 三日月 大造

祝 辞

第23回日本水大賞「審査部会特別賞」を受賞されました中村孝一様に心からお祝いを申しあげます。

中村様は、「川は都市を映す鏡であり、そこに住む人の心をも映し出す」とのお考えのもと、富山市内中心部を流れる「松川」の水環境の改善に向けて、住民の意識を内面から豊かにしようと月刊誌を創刊するなど、これまで40年以上にわたり、“水の都・とやま”再生への挑戦に取り組んでこられました。

月刊誌による情報発信をはじめ、住民との座談会の開催、遊覧船の運航・松川茶屋の運営、水辺を活用したイベントの開催など、熱意あふれる数々の取組みが実を結び、今や松川は、人々で賑わう、美しい水辺空間となっています。

このたびのご受賞は、中村様の長年にわたる取組みと、その成果が高く評価されたものであり、大変嬉しく思います。また、中村様の熱意とご努力に、改めて心から敬意を表します。

中村様には、今回の受賞を契機として、今後ますますご活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
富山県知事 新田 八朗

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第23回日本水大賞「審査部会特別賞」を受賞された「特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会」の皆様、心からお慶びを申し上げます。

皆様は、干潟環境の希少性、重要性を広く市民に伝えるため、中津市沿岸に広がる干潟を「中津干潟」と名付け、20年以上に渡り、地域に根ざした干潟の保全活動に取り組んでこられました。皆様のこうした保全活動に加え、県内の小学校を中心に、あらゆる教育現場でおこなってきた自然観察会や環境学習、研究者や大学との調査研究活動、地元漁業者との連携など、地道で着実な活動が高く評価されたものと伺っております。

大分県では、豊かな自然の恵みを将来にわたり継承できるよう、自然環境や景観等へ配慮した社会資本整備をはじめ、河川、干潟など豊かな生態系の保全や環境保全団体などが活動しやすい環境づくりに取り組んでいます。こうした中、皆様が大分県内から初めて受賞されたことは、県内で環境保全活動を続けている多くの方々の手本となり、今後の活動の励みになるものと考えています。

この受賞を機に、皆様の活動がますます発展し、さらに飛躍されることを祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
大分県知事 広瀬 勝貞

祝 辞

「2021年日本ストックホルム青少年水大賞」を受賞されました「学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校チームSC」の皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

今回の受賞は、未曾有の原子力災害により甚大な被害を受けた故郷の復興のため、身近にある藻類を活用するという新しい視点と、先輩たちから引き継いだ長年の調査研究の成果が高く評価されたものであり、深く敬意を表します。

本県の環境回復はいまだ道半ばではありますが、次代を担う皆さんが困難に負けず、美しい故郷を取り戻そうとチャレンジする姿勢は大変心強く、この成果が必ずや県土復興の力になるものと確信しております。

福島県といたしましても、新しいスローガン「ひとつ、ひとつ、実現するふくしま」の下、復興を一層加速させ、安心して暮らせる環境を取り戻すため、引き続き、総力を挙げて取り組んでまいります。

今回の受賞を契機として、皆さんが今後ますます御活躍されることを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
福島県知事 内堀 雅雄

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

2021日本ストックホルム青少年水大賞「審査部会特別賞」を受賞されました「土佐高等学校」の皆さま、誠におめでとうございます。

このたびの受賞は、将来必ず起こる南海トラフ地震から「命を守る」ための避難経路について、建築物の倒壊、急傾斜地の崩落や地盤の液状化といった副次的な災害が避難路や避難時間に及ぼす影響をシミュレーションによって詳細に考察するだけでなく、避難訓練の見直しや駐車場などの私有地を避難路として使用することで、避難時間の短縮が図れることも示唆されているなど実際の課題解決に向けて有効な研究であることが高く評価されたものであり、大変喜ばしく思います。

高知県におきましても、南海トラフ地震による津波からの避難の実効性を高めるための取り組みを市町村と協力して進めており、皆さまの研究は今後の励みにもなります。

皆さま方におかれましては、今回の受賞を契機に、今後益々ご活躍されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年6月15日
高知県知事 濱田 省司